

# 科学者京都会議終り声明

【京都】日本の知性を代表する科学者、知識人を集めて、さる七日から開かれていた科学者京都会議は九日午後五時すぎ三日間の討論をすませ、出席者が京大基礎物理学研究所で記者会見して声明を発表した。声明はこの会議が核兵器の絶滅を呼びかけた七年前改定アンチヌクリン博士十ラッセル声明に始るパグウォッシュ科学者会議の精神に共感して開かれたことさきたり、戦争放棄を明示した日本国憲法第九条が制定詔書にもまして今日新しい大きな意義を持つていたことと強調して核実験禁止協定の即時締結を強く主張している。

## 声明文(要旨)

核兵器による災害を経験しました戦争放棄を明記した憲法を有するわが国は、世界平和のために特別な責務が課せられるべきです。とくに核戦争による人類絶滅の危険が増大している今日、私たちは日本国憲法第九条が制定詔書にもまして大きな新しい意義をもつていたことを確認するに平和に対する責任をあらためて強調したいと思えます。

パグウォッシュ会議に出席した日本の科学者の呼びかけによつて、リッセル・アンチヌクリン声明の精神に共感するものたちが、この京都に集り、第一回の科学者会議を開き、三日間にわたつて自由かつ真剣な討論を行いました。その結果、次の諸点について意見の一致を見たのであります。

一、科学の発見した世界に内在する真諦を、人類の福祉と平和にのみ役立つために、科学者を含むすべての人が科学の成果の誤用、悪用を防ぐため不断の努力を続けねばならぬ。

一、戦争がもはや国際間の諸問題解決の手段となり得ないことが認められている今日なお、核兵器の威嚇(いかく)による平和維持という根拠的主張があるが、これはむしろ戦争廃絶の危険を増すものである。戦争廃絶の方向に進行するか私たちはこれに反対である。

一、放射性物質が、進化的、身体障害を起すという病状が、また更に重要な問題として、核兵器実験が軍備競争、国際緊張強化、核戦争の危険の増大をもたらすという点から、実験禁止協定の一日も早い締結を要求す。大気圏、水中など容易に探知可能なもの認められてはいるが、直接に禁止されることが望ましい。

## 声明の署名者

- 科学者京都会議出席して声明に署名したのは次の十二氏。出席予定だった夢野司東大議長は都合欠席した。
- 湯川秀樹(京大教授) 朝永振一郎(東京教育大教授) 坂田昌一(名古屋大教授) 都留重人(一橋大教授) 三宅泰雄(東京教育大教授) 高沢俊義(東大名誉教授) 桑原武夫(京大教授)
- 谷川徹三(数学者) 大内兵衛(東大名誉教授) 南原繁(元東大校長) 平塚雷鳥(評論家) 我妻栄(東大名譽教授) 三村脚郎(広島大教授) 川端康成(作家) の八氏が会議の趣旨に賛意を表して討議資料や手紙を寄せていると同会議事務局で発表した。

# 急ぎ核禁止協定結べ 平和へ衆知集めよう

37.5.10

朝日新聞(朝)

C092-015-017

37.5.10

核  
【京大】日  
れいていた科  
席者全員が  
核  
あつた。科学者京都会議出席し  
て声明に署名したのは次の十二  
氏。出席予定だった夢野司東大  
議長は都合欠席した。

湯川秀樹(京大教授) 朝永振一郎  
(東京教育大教授) 坂田昌一(名  
古屋大教授) 都留重人(一橋大  
教授) 三宅泰雄(東京教育大教  
授) 高沢俊義(東大名譽教授) 桑  
原武夫(京大教授)

谷川徹三(数学者) 大内兵衛(東  
大名譽教授) 南原繁(元東大校  
長) 平塚雷鳥(評論家) 我妻栄  
(東大名譽教授) 三村脚郎(広  
島大教授) 川端康成(作家) の八  
氏が会議の趣旨に賛意を表して  
討議資料や手紙を寄せていると  
同会議事務局で発表した。

核兵器による災害を経験しました戦争放棄を明記した憲法を有するわが国は、世界平和のために特別な責務が課せられるべきです。とくに核戦争による人類絶滅の危険が増大している今日、私たちは日本国憲法第九条が制定詔書にもまして今日新しい大きな意義をもつていたことを確認するに平和に対する責任をあらためて強調したいと思えます。

パグウォッシュ会議に出席した日本の科学者の呼びかけによつて、リッセル・アンチヌクリン声明の精神に共感するものたちが、この京都に集り、第一回の科学者会議を開き、三日間にわたつて自由かつ真剣な討論を行いました。その結果、次の諸点について意見の一致を見たのであります。

一、科学の発見した世界に内在する真諦を、人類の福祉と平和にのみ役立つために、科学者を含むすべての人が科学の成果の誤用、悪用を防ぐため不断の努力を続けねばならぬ。

一、戦争がもはや国際間の諸問題解決の手段となり得ないことが認められている今日なお、核兵器の威嚇(いかく)による平和維持という根拠的主張があるが、これはむしろ戦争廃絶の危険を増すものである。戦争廃絶の方向に進行するか私たちはこれに反対である。

一、放射性物質が、進化的、身体障害を起すという病状が、また更に重要な問題として、核兵器実験が軍備競争、国際緊張強化、核戦争の危険の増大をもたらすという点から、実験禁止協定の一日も早い締結を要求す。大気圏、水中など容易に探知可能なもの認められてはいるが、直接に禁止されることが望ましい。